

言いようがない。それは幾度となく生死の境目を歩いてきた自分が一番自覚している事である。今日まで生かされてきた事に対して誠実に全てに感謝したい気持ちで一杯である。

今年三月に開催されたアメリカ支部五十周年記念武徳祭と合宿は、その半世紀に及ぶ歴史的足跡に一光を残す機会であったことは間違いない。アメリカ支部と国際部の参加者五百名以上が寒さも厳しい大西洋の海岸に集結し、その魂とスピリットを体と心と精神で実証した歴史的大会行事であった。

今回の本会支部の企画事業には数百人のボランティアを含む千人以上の人達が関与し、二つの大きな自治体も加わり、数年間に及び準備を進めた。

我々の目指すところには卓越した武道の技術を習得し、個人の総合的發展に寄与することのみならず、それらのプロセスを通じて全ての人間交流を奨励して世界の共存共栄と相互理解の促進に結びつけなければならぬとする点に意義がある。

武道を通じた社会貢献が本会の国際的な発展と共に著しく顕著になつてきたことは実に喜ばしい事である。

本大会前の三月二十一日、マッカーサー記念館庭園に初めて大日章旗と星条旗が共に掲げられ、早春の風が終戦七十周年の歴史を追憶させる中、そこに参列した元帥夫人の親族、米国の学生たち、退役軍人、記念館関係者、市の職員等が見守る中、マッカーサー元帥夫人の人道的な功績を称えて日本庭園の開園式を実施した。我々は恒久的な平和を祈り、これをピースガーデンと命名した。

これは大日本武徳会アメリカ支部五十周年記念として、この記念館の中に大日本武徳会の名誉と誇りを残す意味でもあった。元帥夫人の姪であるシープール夫人家族が植樹式に参加し、ジーン・マッカーサー元帥夫人の功績が認識された事に涙されていた事が印象に残る。

さらに二十六日にはバージニアビーチ市立公園において本会が巨石を設置し、ピースモニュメントと命名した。もとよりその公園にはすでに二百五十本の桜の木を植樹して武徳プロムナード、桑原プロムナードが設置されている。年間数万人がそこを訪問する著名な日本公園となつていて、毎年恒例の桜祭りが開催されている。その公園にアメリカ支部五十周年記念として約一年以上かけて数億年前のものだと推定される二十トンの巨石をテネシー州の山奥から発掘し、数千キロの旅をして運んできた。その巨石が放つ宇宙観的な力は想像を絶する。これがピースモニュメントである所以は本会がひたすらに世界平和を祈願し武道を通じたグローバルな人間交流を推進していく事への誓いである。数百名が参列した特別式典で記念植樹式が実施され、雷雨の嵐から一瞬にして太陽光線が導かれたのは巨石がもたらした奇跡であったのであろうか。式典が終わった後に嵐が再到来したのは偶然の天地の流れであつたのか知る由もない。そのモニュメントに設置されたブロンズ盾には武徳のマークが艶やかに刻み込まれ、人類愛と平和の象徴として永遠に語り継がれることになると確信する。

それに続いて二十七日からアメリカ武徳祭と合宿が同時進行で実施された。武道講習会には数百名が会場一円に広がり、情熱溢れた講習の中素晴らしい稽古を体験した。各武道の指導者はそれぞれの流派武道の基本的な技を入念に教授していた事と受講者の誠実な修得態度が